

多 度 津 町 経 済 動 向 調 査

《第1四半期(2020年4-6月) 調査結果》

1. 調査期間 令和2年6月2日～17日

2. 調査対象 会員40企業に調査票配布(回収企業31 回収率77.5%)

	製造	建設	卸売	小売	サービス
調査対象	12	9	4	7	9
有効回答	10	7	2	6	6

3. 調査項目 今期(2020.4~6月)を基準に前年同期比、来期予測を今期比にて業況・売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員・資金繰りの項目について調査。

※DI指数は、景況判断状況を表すもので増加・好転などの回答割合から減少、悪化などの回答割合を差し引き、ゼロを基準としてプラス値で景気の上向き、マイナス値で景気の下向きを表す。

(仕入単価は下落-上昇、販売単価は上昇-下落、従業員は、不足-過剰の割合を差し引いて判断)

※調査項目の販売単価については2019年第1四半期調査より追加して実施。

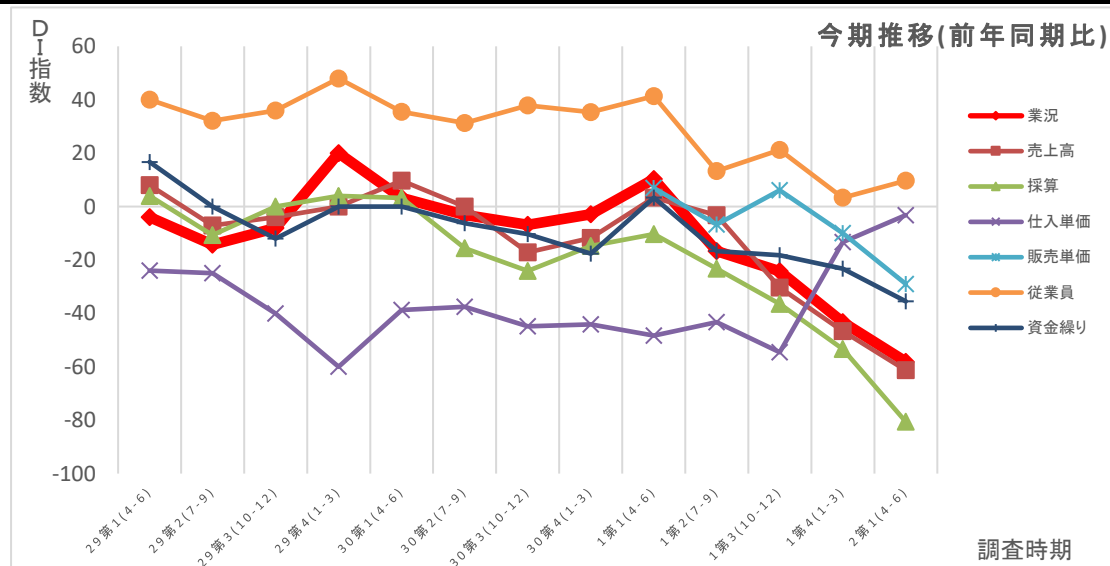
4. 全産業(DI指数分析)

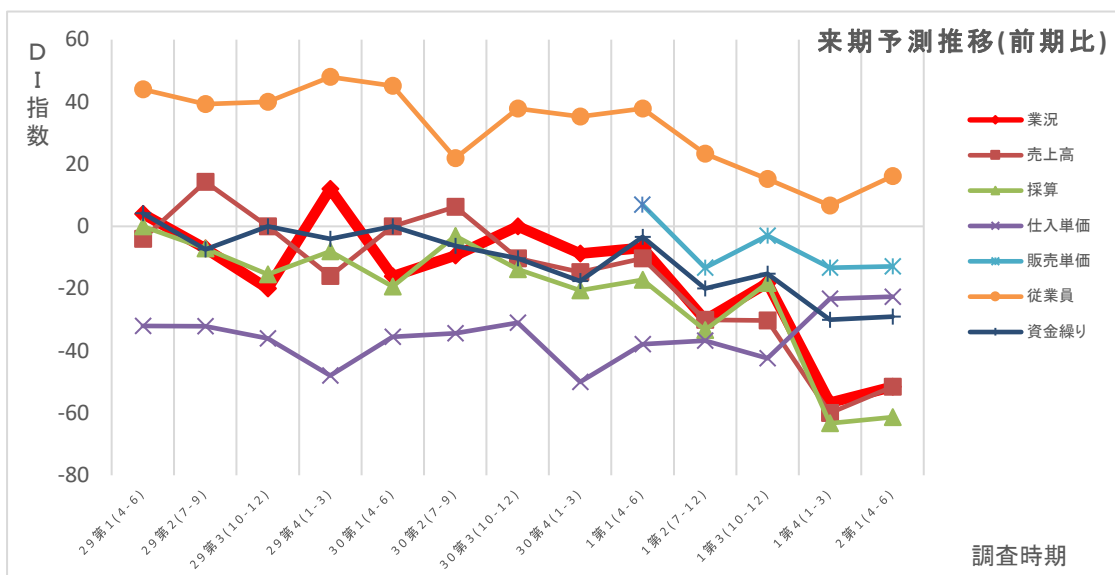
業況は4期連続の悪化。新型コロナの影響が拡大。

先行きは新型コロナの影響を懸念するも改善を見込む。

業況DI▲58.1(前期比-14.8^ポ イト)、売上高DI▲61.3(前期比-14.6^ポ イト)、採算DI▲80.6(前期比-27.2^ポ イト)、仕入単価DI▲3.2(前期比+10.1^ポ イト)、販売単価DI▲29.0(前期比-19.0^ポ イト)、従業員DI9.7(前期比-11.5^ポ イト)、資金繰りDI▲35.5(前期比-12.1^ポ イト)。

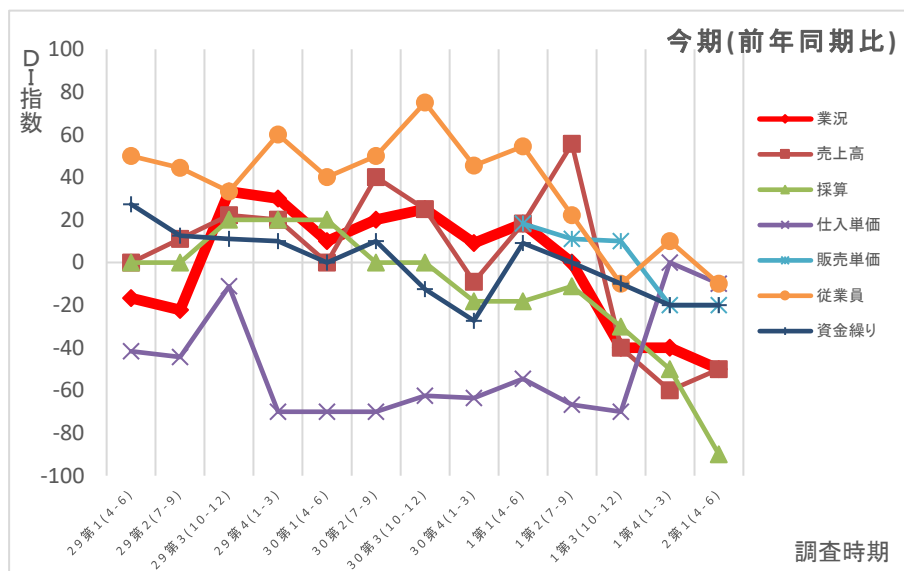
先行きの見通し(来期予測)の業況DI▲51.6(今期比+6.5^ポ イト)。売上高DI▲51.6(今期比+9.7^ポ イト)、採算DI▲61.3(今期比+19.4^ポ イト)、仕入単価DI▲22.6(今期比-19.4^ポ イト)、販売単価DI▲12.9(今期比+16.1^ポ イト)、従業員DI16.1(今期比+6.5^ポ イト)、資金繰りDI▲29.0(今期比+6.5^ポ イト)の結果となった。





5. 業種別 (DI指数分析:前期比)

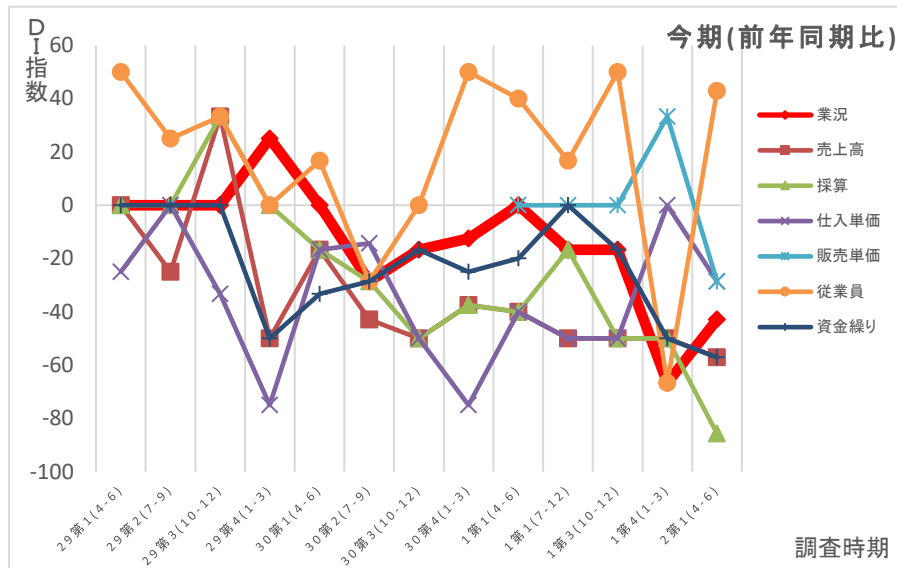
製造業↓ 業況DI▲50.0(前期比-10.0ポイント)。
 売上高DI▲50.0(前期比-10.0ポイント)、採算DI▲90.0(前期比-40.0ポイント)、仕入単価DI▲10(前期比-10.0ポイント)、販売単価DI10.0(前期比+0ポイント)、従業員DI▲10.0(前期比+0ポイント)、資金繰りDI 0(前期比+10.0ポイント)。
 先行き(来期)見通し、業況DI▲80.0(今期比-30.0ポイント)悪化を見込。



建設業↑ 業況DI▲42.9(前期比+23.8° イト)。

売上高DI▲57.1(前期比-7.1° イト)、採算DI▲85.7(前期比-35.7° イト)、仕入単価DI▲28.6(前期比-28.6° イト)、販売単価DI▲28.6(前期比-61.9° イト)、従業員DI42.9(前期比109.6° イト)、資金繰りDI▲57.1(前期比-7.1° イト)。

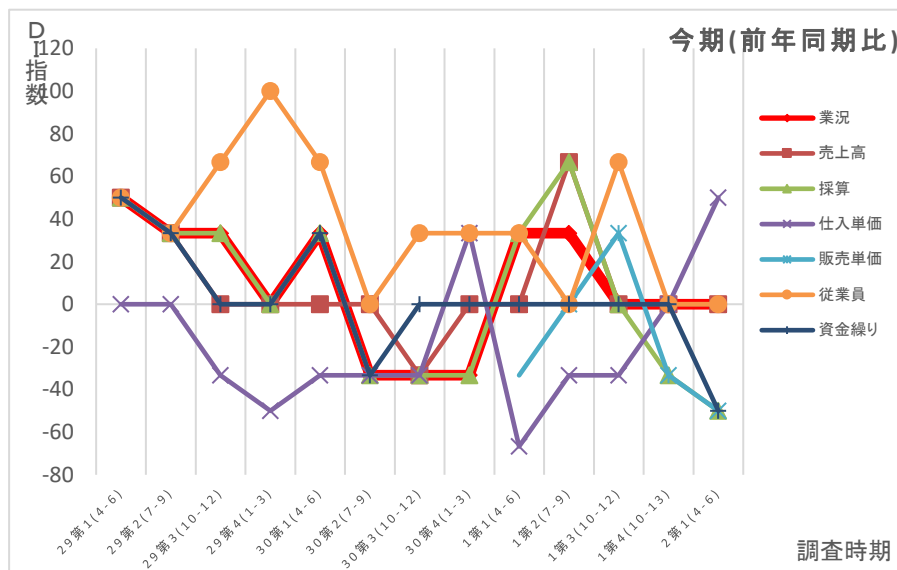
先行き(来期)見通し、業況はDI▲42.9(今期比+0° イト)横ばいを見込。



卸売業→ 業況DI0(前期比+0° イト)。

売上高DI0(前期比+0° イト)、採算DI▲50.0(前期比-16.7° イト)、仕入単価DI50.0(前期比+50.0° イト)、販売単価DI▲50.0(前期比-16.7° イト)、従業員DI0(前期比+0° イト)、資金繰りDI▲50.0(前期比-50.0° イト)。

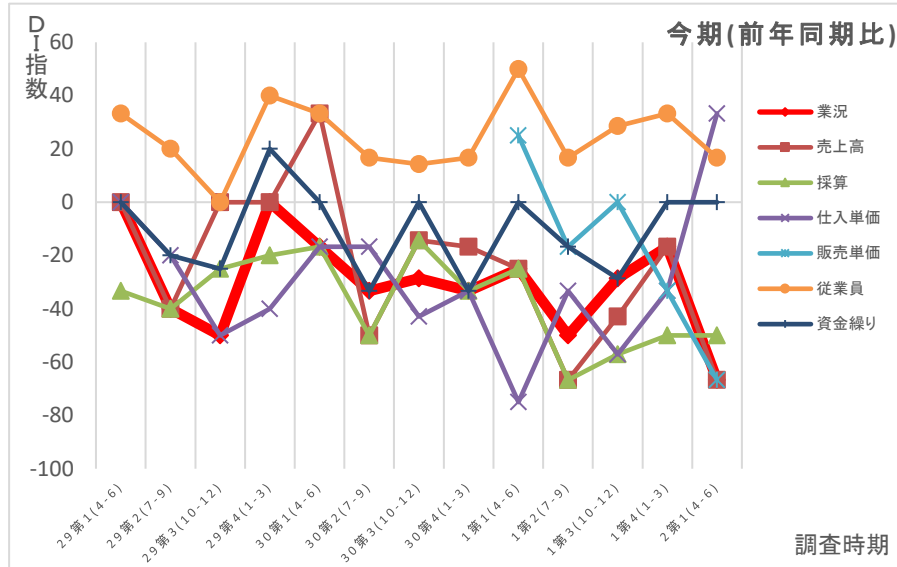
先行き(来期)見通し、業況DI0(今期比+0° イト)と横ばいを見込。



小売業 ↓ 業況DI▲66.7(前期比-50.1ポイント)。

売上高DI▲66.7(前期比-50.0ポイント)、採算DI▲50.0(前期比+0ポイント)、仕入単価DI33.3(前期比+66.6ポイント)、販売単価DI▲66.7(前期比-33.4ポイント)、従業員DI▲16.7(前期比-16.6ポイント)、資金繰りDI0(前期比+0ポイント)。

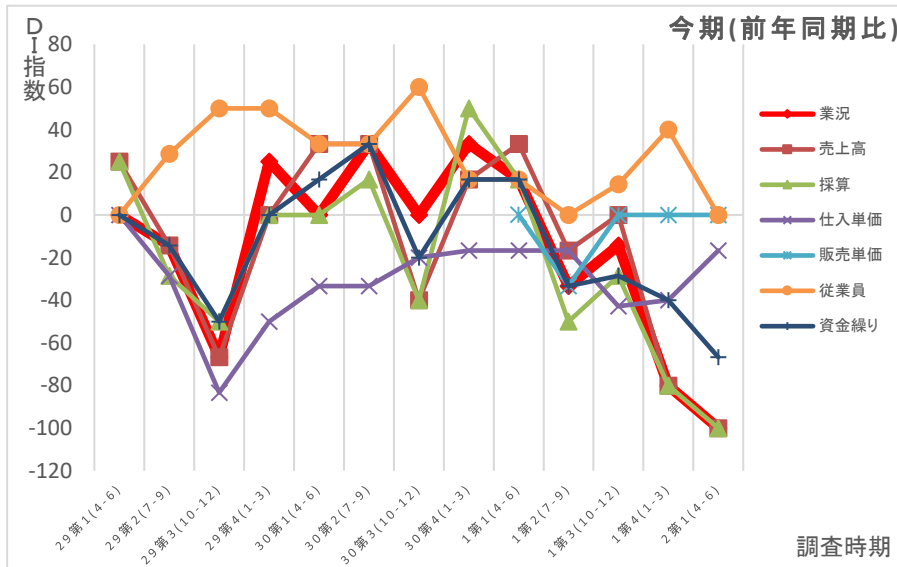
先行き(来期)見通し、業況DI▲50.0(今期比+16.7ポイント)と改善を見込。



サービス業 ↓ 業況DI▲100(前期比-20.0ポイント)。

売上高DI▲100(前期比-20.0ポイント)、採算DI▲100(前期比-20.0ポイント)、仕入単価DI▲16.7(前期比+23.3ポイント)、販売単価DI0(前期比+0ポイント)、従業員DI0(前期比-40.0ポイント)、資金繰りDI▲66.7(前期比-26.7ポイント)。

先行き(来期)見通し、業況DI▲33.3(今期比+66.7ポイント)改善を見込。



【業況感等コメント】

- モノづくりに関して新規案件の停止とマインドの低下により市場が冷え込んでおり、生産調整を強いられる場面が想定される。 (製造業)
- コロナウイルスの影響により景況悪化している。 (サービス業)
- 巣ごもり消費で量販店への売上は下がらなかったが、全体の売上は単価が低下。仕入量、販売量もほぼ前年並だが収益は大きく下落。仕事量は変わらず雇用を維持しているものの主が外国人研修実習生で日本人の雇用が進まない。資金繰りはコロナ対策資金を申請し、当面問題ない。 (製造業)
- 新型コロナの影響により市況が急激に落ち込み、先が全く見えない状況となっており、減産を強いられて固定費がラップすることとなっている。また、製品及び資材在庫が高止まりすることで資金繰りも厳しい。 (製造業)
- 中国向け製品が止まった関係で前期売上が減少、今期出荷できれば売上高は良い状況となる。海外への営業展開が新型コロナの影響での活動の制約が心配される。 (製造業)
- 新型コロナ感染拡大の影響で飲食からの引き合いが白紙となる案件があった (製造業)
- 人手不足であるも元請や工事量の減少で先行きの見通しが不安である。 (建設業)